第１７回安来市美術展　入賞作品選評

デザイン部門

総評

例年出品点数が少ない現状である。絵画表現とは違う、メッセージを伝えるという気持ちを持ってデザインにしか出来ない表現方法で挑戦していただきたい。（近藤隆審査員）

■奨励賞　「祝福」　平木　未来

喜びなのか悲しみなのか、目から涙がこぼれ落ちる女性像。華やかな色彩の中で見ている先は何か。来年もこの暖かみのある作品を期待したい。（近藤隆審査員）

■中央画材賞　「鉛筆画」　足立　咲樹

インテリアや魚を鉛筆画で組み合わせた作品。小品ながら、作成意図が明確で、技術的にもクオリティが高く、デザインとして洗練された秀作となっている。（近藤隆審査員）

洋画部門

総評

たくさんの作品を出品していただき、市美展と言うにふさわしい、若い方からベテランの方の力作を並べることができました。いずれの作品も例年以上の充実ぶりで、喜ばしく思います。（山崎道弘審査員）

■市長賞　「明晰夢」　伊藤　杏夕花

人物の背後にのしかかるカエルは、何を象徴しているのか。将来の不安か希望か。夢の中の現実の不思議な世界が描き出されている、若さとエネルギーが溢れる力作だ。（近藤隆審査員）

■奨励賞　「約束」　池田　稔

昼と夜の背景の中に眼のある不気味な生き物が画面一杯に広がっている力作である。白い光の線もよく画面に決まっている。（仲西嗣雄審査員）

■奨励賞　「生命の鼓動」　吉岡　さつき

最初に受けるインパクトが、絵具の塗り込み方や配色の工夫に導かれる作品となっています。力強さだけでなく、四辺をベージュで囲むなど細かな気遣いも素敵です。（山崎道弘審査員）

■奨励賞　「みんなで遊ぼうよ」　古志野　亮太

素朴な表現であるが作者が心から楽しんで描いているのがよく伝わってくる秀作である。絵具の付け方もリズムがあってよい。（仲西嗣雄審査員）

■安来市文化協会賞　「風景」　小澤　正美

水彩絵具を使いこなしておられる秀作です。左下に大きく水面を入れ、右上には対照的に建物や人物をにぎやかに入れる構成も成功していると思います。（山崎道弘審査員）

■広瀬町文化協会賞　「庭園」　祖田　善雄

こんもりとした庭園の一角を独特なタッチで一筆一筆に思いを込めて描かれています。引き込まれそうな意欲を感じます。ただ上部の緑に少し変化があるともっとよくなるでしょう。（花谷久代審査員）

■安来市加納美術館賞　「恵みの雨」　古曳　小夜子

今年も菜園に挑戦されました。例年にない高温だった畑の様子が多彩な色でうまく表現されています。タッチも個性的です。空間が相まって思いを込めて描かれていて意欲を感じます。（花谷久代審査員）

日本画・水墨画部門

総評

今年は出品数が少なくて少し淋しいですが、力作が揃って見応えがあります。色彩、墨と作品が合わさってとても良い会場になっています。制作の苦労を思い浮かべると作者の方への敬意を表したいと思います。（中川端月審査員）

■市長賞　「和紙に魅せられて」　小谷　紘子

難しい白色を巧みに扱い、花弁の柔らかさと優美さを存分に表現されています。葉色も青系の白で描き、花との色調にもまとまりがあります。バックのマチエールも面白く、被写体を引き立てています。（吉岡珠恵審査員）

■奨励賞　「天空の窓」　柳樂　光子

スタイリッシュな構図と色彩に洗練された作者の感性に驚嘆しました。寒色でまとめられた中に、赤の差し色が効いています。作者の世界に溢れた無二の秀作です。（吉岡珠恵審査員）

■奨励賞　「朝霧の山々」　内田　洋彩
　谷間を潤す白雲がとても目を惹きます。淡墨の使い方も上手ですし、濃淡を使い分けての良い作品の仕上がりです。（中川端月審査員）

■安来市文化協会賞　「いつもの時刻」　岡本　幸子
　木漏れ日の中から何かを狙う猫ちゃんの姿が美しい。光を浴び、その顔がランランと輝いている。それ飛びだせ！スタートを切るのをじっと見ていたい。（角田智竭審査員）

写真部門　　総評及び選評：小田原利典審査員

総評
　今年も応募点数が減ったようで、大変残念です。作品のレベルは安定していてまずまずで、ピントが悪かったり、色がしっかりと出ていないような作品はなかったと思います。ただ、いつかどこかで見た写真が多くて、ああ、こんな撮り方があったのかと思わせるような新しい視点や、斬新なアイディアにもとづく作品は少なかったと思います。
　入賞作品についてはジャンルにかたよらないようにしてセレクトさせていただきました。
　作品づくりの基本をしっかりと身に付けておられる方が多いと思われますので、あとはご自分の感性にもとづいて、ハッとするような鋭い写真を創って行かれることを期待しております。
　応募作品では、モノクロがわずか１点ということで、寂しく感じました。昨年も申しましたが、単純ではあるが奥の深いモノクロの世界を追求される方がもっといて欲しいと思います。

■市長賞　「夕ぐれの兄弟」　真砂　昇平
　情景としてはよくある写真なのですが、細かいところまで見せ方が行き届いていて、スピルバーグ監督のＳＦ映画のワンシーンや童話の挿し絵を連想させるような作品です。画面全体の配色、光の扱い方、人物の配置など秀逸です。特に人物の顔がわずかに離れているところや、二人のしぐさに強い情感が感じられます。

■奨励賞　「孫の夏休み」　赤坂　俊一
　お上手なスナップショットです。背景が効果的でインパクトを強くしています。ハイコントラストで、色にメリハリがあって、美しい写真です。二人の子供の声が聞こえてくるようです。

■奨励賞　「休日」　長谷川　公子
　偏光フィルターが使われているのでしょうか、スコンと抜けた青空が美しく、コントラストの強い不思議な風景を表現した感覚的な作品です。好きに見てよと「休日」とタイトルしたところもよいと思います。単純なようでいて奥行きの深いモノクロ表現をもっともっと追求しましょう。

■奨励賞　「炎に願いを」　遠藤　勉
　まるで炎が生きているかのような大変ユニークな作品となっています。特に炎を人物にかぶせて撮った作者のアイディは素晴らしいと思います。目の前の風景をどう捉えるのかは、まさに写真表現の醍醐味です。

■安来市文化協会賞　「蒼」　山本　裕子
　シンプルで、何かしら心を癒やしてくれる作品です。ブルーのトーンの微妙な変化があちこちに散りばめられ、ユニークな風景写真となっています。画面構成が秀逸で、水面上に反射する光の変化にとてもリリカルな心地よさを感じます。

■広瀬町文化協会賞　「鷺舞」　福田　秀夫
　動物など動体をとらえる写真は技術的にたいへん難しいのですが、この作品は、的確なフレーミングで見事に決定的な瞬間を捉えています。さらに、ピントの良さとメリハリのある色構成が作品としての価値を高めていると思います。

■安来市加納美術館賞　「炎天下の散歩」　近藤　末美
　ネイチャー写真ですが、たいへんユーモラスに被写体をとらえています。望遠系レンズの接写ではなく、比較的短めのレンズで被写体に迫って撮ったことで作品にインパクトが出たのだと思われます。背景のボケ具合も良い感じです。

■（株）山陰フジカラー賞　「迷宮」　米田　直之
　赤色と青色を上手に取り込んで、まるで異次元空間にいるような面白さを表現しています。人物が少し背景やトーンの中に沈んでいるので、人物に動きとか、トーンのメリハリがあれば、もっと迫力が出たのではないかと思われます。